

【タイトル】 野外研修「学名と共に覚える温室植物」

【日 時】 平成 31 年 4 月 16 日(火) 9 : 50 集合

(第一部) 屋外 10 : 00~14 : 00、 (第二部) 温室 14 : 00~15 : 00

【場 所】 新宿御苑

【主 催】 FIT 研修部会

【一文紹介】下見の結果、温室の通路が狭いこと及び野外の観察が快適な季節であるため、温室中心から屋外の見覚えのある FIT 活動でもなじみのある植物中心に変更しての学名入門研修(第一部)及び温室植物観察(第二部)を実施した。

【公開記事】朝から快晴で快適な野外観察日和。10 時、高橋研修部長のあいさつで第一部開会、横山講師によるアイスブレイキング(各人が全員とタッチ&大声で笑い合い)の後、全員が参加目的を述べる。ほとんどが初参加。講師から全部覚えようとせず、覚えるのは興味のあるものだけでよいとのアドバイスをいただいて早速観察場所へ移動。晴天に恵まれカップル、家族連れ、グループ、外国の人達など大勢の人出となり思い思いに花見や散策などを楽しんでいる様子。カメラ・ルーペ・双眼鏡を操作したり樹名板をのぞき込んでメモを取る集団、それが我々研修生。学名とは「属名と種形容語で構成される(二名法)」に始まり、性別による語尾変化、亜種・変種・品種・交雑種・園芸品種の表記の違いなど、現物と学名を照らし合わせながら受講。カエデ属には托葉がなく低出葉がある、ハンカチノキにある高出葉は苞ではなく総苞であるなどを学習。講師の熱のこもった解説に質問も飛び交い、ヒートアップして汗ばむほどの学名研修となる。午前の部は 12 時 25 分まで 27 個、午後の部は 12 時 50 分から 14 時まで 17 個(合計 44 個)の学名解説をいただき第一部終了。

★横山語録「なじみのあるものから覚える」「知っているものと結びつけると楽しい」「植物は属で覚える」「モチノキ属は雌雄異株という風に属単位で覚えると都合が良い」「学名を学ぶことは属名を覚えることにつながる」「japonica は必ずしも日本固有とは限らない」など。

第二部は 5 名の希望者が参加して高橋部会長の解説による温室植物観察。ラン科最大種のタイガーオーキッド、食虫植物ネペンテス(ウツボカズラ科)、幹生花(果)のジャボチカバ(フトモモ科)など温室内は珍しい植物であふれていた。そして思いがけず仏教の三大聖樹の一つ沙羅双樹の花を見ることができ感激に浸りつつ解散。とても貴重で楽しい一日でした。横山講師、高橋部会長どうもありがとうございました。

【スタッフ】横山茂講師(FIT) 高橋喜蔵研修部会長

【参加人数】FIT 会員 11 名

【報告者】丹野 修

【写真枚数】7 枚



コブシの学名解説 Magnolia kobus DC.



ホソエカエデの低出葉(普通葉以外の葉)



ハンカチノキの雌花・雄花群 と総苞



園芸品種の表記は・America・（一重の引用符で括る）



幹生花(果)のジャボチカバ



サラソウジュ(沙羅双樹)の花



のどかな春景色